

# 労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2020年2月27日発行

No. 567号 (第51期 12号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

## 東海ブロック雪崩事故を防ぐための講習会



2020年1月18日(土)～20(日)の二日間で、栂池高原スキー場周辺で行いました。

受講者は静岡県連4名、愛知県連2名、講師はASC(水野)東三河(森)、岐阜ケルン(伊左治)、事務局は佐藤(あつた労山)、合計10名で行いました。

1日目は、ゴンドラで栂の森駅まで上がり、ビーコンチェックから始まり、ピット掘り、コンプレッションテスト、雪の断面観察、ブローブの使い方、埋没体験、埋没者の救助方法、などを行い、夜は宿でコンパニオンレスキューの一連の流れの説明などを勉強しました。2日目は、スキー場第2駐車場付近の樹林帯で、ビーコンの捜索、パーティでの捜索方法(チームを組み役割分担~捜索~掘り出し)複数の埋没者の場合などいろいろな条件をシュミレーションして行い講義を終了しました。

《目次》	東海ブロック雪崩事故を防ぐための講習会	1
遭対部	1/20、第51期積雪期救助訓練机上を開きました。	2
	1/17 冬山合宿遭対報告会議を開きました。	4
	第51期、第5回遭対担当者会議の報告	5
教育部	1/15(水) 第10回教育担当者会議を開きました	6
女性部	女性部だより	7
	「山の自然に親しむ」 愛知県連公開講座のお知らせ	7
	カレンダー	8

## **遭対部** 1/20、第51期積雪期救助訓練机上を開きました。

2020年1月20日(月)19:30から県連事務所で第51期積雪期救助訓練机上を開き、10山岳会25名が出席しました。【出席者】ちんぐるま1、くらら2、じねんじょ5、半田F4、かわせみ4、あつた4、スルジェ1、ふわく2、若駒1、同志会1。講師は、県連登山学校コーチ・半田F会長の洞井孝雄さんです。

はじめに

昨今、事故が発生しても仲間たちが捜索隊や救助隊を組織して現地に向かうこともほとんどなく通信手段の発達によって、容易に位置を特定でき、警察や防災ヘリの出動により短時間のうちに搬出が可能な時代になった。登山者の仲間や家族のもとに事故や遭難の連絡が届いた時点で、現地での救助活動は終わってしまっている、そんな状況が珍しくなくなってきた。

こうした状況変化から、私たち登山者は、事故が起きた場合、けが人や病人に対して、その周囲のメンバーや登山者が、現状をそれ以上悪化させないで、速やかに搬出できるための手立てをどのように講じるか、また、どのように救助要請を行うか、要請をしたのちに、ピックアップ可能な地点までどのように移動させるか、などのセルフレスキューの知識・技術を知ること、身に付けておくことが大切だと考えられる。さらに最悪の場合、そこにいるメンバーが搬送・搬出を行うことができれば心強い。

積雪期の事故事例から

2001年3月11日 北アルプス・西穂高岳（「事故事例集」66ページNo.141参照）

2006年1月8日 八ヶ岳・赤岳主稜（「事故事例集」76ページNo.215参照）

2011年12月30日 北アルプス・大喰岳（「事故事例集」100ページNo.320参照）

2016年12月25日 北アルプス・西穂高岳（「事故事例集」122ページNo.020参照）

2019年3月23日 八ヶ岳・阿弥陀岳

事故対応

- ・冬山で事故が起きた（どこで、どんな状況で、だれが、どのように-----）  
同じパーティのメンバーがケガや疾病で動けなくなった
- ➡どうする？ まず、落ち着こう！【記録をとることも大事！】
- ・自分たちが安全かどうか確認
- ・事故者のところまで(下りて)行く → 事故者の状況(位置、ケガ・疾病の程度の評価)  
→事故者の安全な地点への移動(その前に処置が必要ななら処置)  
→事故者の保護(応急処置、保温、防寒→ダウン、ツェルト、ストーブ、テルモスなど)雪洞、ブロック、雪囲いなどの工作と移動

意識(反応)がない、あるいはおかしい

多量の出血がある

呼吸がない、おかしい(異音、苦しそう)

頭部や背中に強い衝撃を受けている可能性がある➡こんな場合はすぐ緊急通報➡現在地点の正確な把握

救助要請

→「110」もしくは「119」への連絡 — 警察➡山岳警備隊、 消防➡山岳救助隊

どちらが動くかはその時々状況や気象、部隊配置などによって出される出動命令による。

一般に、捜索が必要な場合は警察（110） 事故現場が明確な場合は消防（119）

通報事項

山岳遭難であることをまず伝える → 担当部署につないでもらう、もしくはコールバック  
所在地

〇〇年〇〇月〇〇日、〇〇時〇〇分頃/〇〇岳を登山中、〇〇付近の〇〇で〇〇事故  
救助要請内容と要救助者の状態  
救助要請の理由/ファーストエイドができた時はその内容も/事故者の状態は〇〇/  
現在〇〇の状態です  
要救助者の情報  
氏名、年齢、性別、緊急連絡先など  
現場の気象状況

- ・「携帯電話で話している」ことを伝える
- ・途中で切れないよう、立ち止まって話す
- ・通話後はその場を離れず、電話を切らない

無線がベストだが、携帯が通じればラッキー。

携帯の通じないところ、ない場合は、ホイッスルなどで信号を送る場合も。

野外における遭難信号

発信 → 1分間に6回(10秒に1回)、受信 → 1分間に3回(20秒に1回)。

冬山は、夏の感覚とは違う 独自の装備・技術・経験が必要

無雪期の装備のベーシック・ミニマムを前提として(重複もあり)

→ 防寒具(保温性の高い中間着の着脱)、ゴーグル、グローブ、アイゼン、ピッケル、スコップ、ヘルメット、ツェルト、マット、コンロ、テルモス、食料、携帯(バッテリーも)、ラテ---これらを携行してますか? 携行することで、対応もまた可能になる

負傷者(病人)の保護

避難場所での低体温症対策

- ・手足の冷たさ、震え(震えていた人が温まらないまま震えがなくなるのは重症)
  - ・手遅れにならないよう、「震え」の段階で対応すること
  - ・意識の確認「しっかりしているか?」(ふらつく、話のつじつまが合わない)
- ➡ ・隔離(冷たいものからの接触避ける)

敷物、風よけ(屋外では濡れないようビニール素材など)

△カロリー補給(エネルギーの補給)

△水分補給(暖かければGOODだが、まず水分補給)

・保温(なるべく厚着。帽子、マフラーは有効)、濡れた衣服は脱ぐ(着替えがなくとも脱いで毛布などにくるまる、毛布などは二人でくるまると温かい)

・加温(体温がこれ以上低下しないよう加温)震えがある段階では、どんな温め方でも大丈夫。湯を入れたペットボトルなどで「脇」「股」「首」(脈が触れるところに)

凍傷

- ・まず、低体温症を評価、低体温症がなければ(条件があれば)治療
- ・凍結部位は注意深く評価(感覚がなくなっていると患者はその部位の軟部組織の障害に気づかなくなる)
- ・野外で加温を決めたら37°C~39°Cのぬるま湯につける。➡ 条件的に無理

凍結部位をこすらない

アルコールや酒はNG 氷や雪を当てない 冷たい水で凍結部位の解凍を試みない

凍結部位を高い温度(ストーブ、排気ガスなど)で解凍を試みない

形成される水疱を壊さない

ともかく一刻も早く下山。医師(可能な限り、地元の経験のある)の診察を受ける

退避、待機(以下、別紙参照、略)

テント(あれば)

ツェルト→ 「隔離、保温」に使うツェルトとは別。ツェルト担架の作り方←知っておこう

## 1/17 冬山合宿遭対報告会議を開きました。

2020年1月17日(金)19:30から県連事務所で冬山合宿遭対報告会議を開き、9山岳会13名が出席しました。【出席者】樋江井(若駒)、野村・西尾(くらら)、伊藤・廣田・亀井(同志会)、谷岡(ありんこ)、鈴木・洞井(半田F)、谷本(あつた)、松本(東三河)、岩田(じねんじょ)、望月(ふわく)。報告書は、7山岳会から提出され12件です。

○合宿を取り組んだ山岳会から報告を受け議論しました。主な点を掲載します。

- ・雪は、例年の3分の1と少ない。
- ・ガスバーナー事故(ヒヤリハット参照)後、煮炊きはどうしたか?と質問があった。ガスボンベをもう一つ持って行ったので、それで対応した。
- ・訓練に、アイゼントレーニングを入れてほしい。
- ・急斜面で、全員ピッケルを使ってクライムダウンで下りる。初めてのものもいた。会としてトレーニングすることになった。
- ・クラスとした急斜面のためロープを出すのが、ロープが絡まり捌くのに20分ほどかかってしまう。⇒ロープを予め捌いてから出す。
- ・ロープワークの途中で、素手を出してしまった。途端に両手が冷たくなり温めなおすのに大変だった。
- ・雪が少ないので合宿になっていない。
- ・テント設営にかかるが、テント本体を忘れたことに気づいた。会は、出発前に共同装備の点検をしているが、テントは詰めるのに苦労するから出して確認しなかった。近くに避難小屋があったため助かったが、もしなかったら重大事故につながる可能性があった。装備を忘れないようにするにはどうするか課題とする。

・下山中、先頭を歩いていたCLが雪を踏み抜き、登山道から脇に1.5mほど落ちるアクシデント。登山道脇も傾斜なく幸い怪我がなかったがヒヤッとした瞬間だった。パーティは3名でCLを除く2名は、入会1~2年目の新人だった。CLがこけたらみんなこけちゃうという計画だった。

・行者小屋のテント設営、雪不足(数10cmで土が出る)で、で雪をもってきて固めた。

○ヒヤリハット

・メンバーの1人、足が攣り、荷物を分散するも体調がすぐれなかったため、その先の山行は無理と判断して、避難小屋へ戻り止まることにした。

- ・下山の途中で、アイゼンが外れ転倒した。
- ・テント内で、会装備の白ガソリンに点火したところ、数秒後にガス管から生ガソリン漏洩し引火。水をかけ消火に成功したが、マットが溶けてダメになり、テントの床の一部も熱変性した。幸いにも負傷者が出なかったが、一つ間違えば、テントの焼失、メンバーの火傷事故につながってもおかしくない状況だった。消火は、酸素を断つことが最適。

- ・路面凍結のため、何名か転倒した。
- ・アイゼン引っ掛け転倒。
- ・駐車場から路面凍結、アイゼン(チェーンスパイク)でもよかった。⇒歩く分にはチェーンスパイクでもよかったが、アイゼンの代わりにはならないと指摘された。

○まとめ

・今期の冬山合宿は、時期的には、確かに厳冬期だが、積雪量、温度などいわゆる「冬合宿」の条件を満たしていないことを明記すべきだ。

## 第51期、第5回遭対担当者会議の報告

2020年2月7日(金)19:30から県連事務所で第5回遭対担当者会議を開き、12山岳会12名が出席しました。【出席者】天池(アリス)、高井(春日井峠)、洞井(半田F)、野村(くらら)、鷺見(スルジェ)、谷岡(ありんこ)、春日井(みどり)、加藤(ちんぐるま)、樋江井(若駒)、森(東三河)、神谷(ASC)、望月(ふわく)。

議題は、1、総会議案の審議 2、事故報告

総会議案の審議

・ある会から、新しい会員は意欲があるが、古い会員はそうではない、ザイルを持って行っても使えないし、ツェルトの必要性に気が付かない、知らないと発言があった。⇒それに対し、あなたが会員を誘って県連の講習に参加する、学んだことを忘れないこと。古い会員の姿勢が変わらないといかん、嫌われようが正しいことを言い続けることが大切、などの助言があった。

・うちの会は、事故があったが、幸い生還したので、当事者からその体験を語ってもらうことができる。

・今期の冬合宿は、本当の「冬合宿」ではなかった。山域もこの周辺に限定されているし、レベルも一般化している。今まで合宿を組めてた会が組めなくなったのはどうか？逆に合宿を組むようになった会はあるか？

・愛知が考えていること、やっていること、全国に引けを取ってはいない。全国連盟の事故一覧を見ても、愛知は死亡事故・ケガも少ない。

2、事故報告

No.20 下山中、小石に滑って転倒、負傷

【事故発生日時】2019年11月8日(金)8:15ころ 【山域・山名】春日井市・弥勒山

【事故者】男性 70才、

【受傷の程度】左足首捻挫

【事故の概要】弥勒山から内津峠に向かって、3分くらいのところ。小石に滑って転倒し左足を捻挫した。下山後、整形外科を受診左足関節レントゲン撮影、強度の捻挫と診断され、創傷処置を受けたが、通院10日経っても腫れが引かないため、整形外科の紹介で総合病院で検査、「下肢深部静脈血栓症」と分かり即入院となった。医師は「患部を包帯で強く巻いたことでエコノミークラス症候群(深部静脈血栓症)になったのではないかと説明している。

▲反省・指摘など

- ・事故者は、週5日、計画書を提出し散歩がわりに登っている。
- ・そこへ登るだけの基礎体力、動きを持っているか？

No.21 木の根につまづき転倒、右手首切傷

【事故発生日時】2019年11月8日(金)9:30ころ 【山域・山名】春日井市・弥勒山

【事故者】女性 71才、

【受傷の程度】右手首挫滅創

【事故の概要】弥勒山から下山中、木の根につまづき転んだ。その際、右手首を小枝の切り口で切った。消毒止血し下山後、外科を受診し手首を三針縫った。

▲反省・指摘など

- ・下山後に、出かける予定があったので急いでいた。
- ・目的意識がはっきりしていない。

No.22 体勢を崩し尻餅、左手首を負傷

【事故発生日時】2019年11月17日(日)13:30 【山域・山名】滋賀県長浜市・天吉寺山

【事故者】女性 58才、

【受傷の程度】左手関節亀裂骨折

【事故の概要】下山途中、550mポイントの南、標高480m付近の傾斜のきつい尾根を下がっているとき足を滑らせ尻餅をついた。その際、右手にストックを持っていたが、左手を地面につき負傷した。事故後、湿布し下山した。翌日、医療機関を受診し骨折と診断された。

▲反省・指摘など

- ・どういう風に滑ったか？

- ・ストックは、使い慣れていないか？ 1本かダブルか？
- ・下山道の状態が分からない。乾いていて、滑りやすい状態？

## **教育部** 1/15(水) 第10回教育担当者会議を開きました

日時：1月15日(水) 19時30分～

参加者：半田F(新海)、あつた(谷本)、くらら(吉田)、みどり(澤田)、ありんこ(榊原) 計5山岳会 5名

51期最後の担当者会議となり、総会資料(案)について話し合いました。

### ①51期の活動の報告(特徴的な点)

- ・登山学校は受講生は今期はクライミングコースのみで、じねんじょ2名、あつた1名、かわせみ4名、半田2名、若駒1名の合計10名で行われました。
- ・氷雪技術講習は、10山岳会から講座1～4で毎回20名を超える受講者があり、延べ97名(平均24.3名)でした。12名参加の日帰り実技(伊吹山)は雪がなく中止になりました。4名参加のテント泊実技(天狗岳)は2/22-23に実施予定です。
- ・コーチ会議から「登山学校のまとめ」を教育担当者会議に提出・議論後、総会で報告するように50期の総会において明記しましたが、そのように運営はできませんでした。コーチ会議は教育部の所属ですので、本来、教育部として手を打たなければいけません。現在、理事会とコーチ会議が揉めている状況がつづいており、一専門部でなんとかできる話しではなく、愛知県連全体でなんらかの解決策が求められています。

県連盟としての教育活動を考えた場合、県連全体の中で県連教育部がどのような役割を果たすのか。現在、遭対部で各種訓練を実施、組織部で一般登山講座を実施、女性部で山筋ゴーゴー講習を実施、教育部で氷雪技術講習を実施、また、教育部所属のコーチ会議で登山学校を実施しています。会と県連との関わり方や県連全体の教育体系について、講師等の人材確保や運営面も含めて、改めて整理していくことが大切です。

### ②52期の活動について(特徴的な点)

- ・会議でさまざまなことを話し合うことも大事ですが、県連に所属している各会の教育に携わっている方々、リーダーとして山行を引っ張っている方々が、顔や性格や山の技術の力量をお互いに確認・把握し、親しくなることから始めていくこととします。具体的には、来期の方針として、交流山行(1-2ヶ月に1回)を設定し取組みこととしました。

- ・4/19(日)御在所岳(ヴィアフェラータ・富士見尾根)/一の谷新道
- ・5/17(日)国見岳(国見尾根)/御在所岳(中道) 一般登山講座のスタッフとして参加
- ・6/27(土)御在所岳(地獄谷)/ハライド 朝明駐車場を起点とする
- ・8/30(日)元越谷 沢登り山行での交流

### ・氷雪技術講習会について

- ・50期に実施したアンケートにおいて、氷雪技術講習会はこれから雪山を始める人を対象としているのに、名称がそぐわないとの意見が出されていました。それに対し、50期に講座の中身がわかりやすいように実施案内を見直しましたが、52期では、名称も見直すことを提案します。(これから雪山を始める人が安全に雪山に登れるように・・・という思いから、「雪山安全講習会」の名称を提案)
- ・51期に実施しなかった「一般の方も氷雪技術講習会を受講可(講座のみ)」を再度提案していくこととします。

来期も、教育担当者会議・交流山行に奮って参加をお願いします。

## 女性部 女性部便り

1月16日(木) 県連事務所において女性のつどいを開催しました。二宮(みどり)、田中(若駒)、服部(くらら)、稲垣(同志会)、日高(スルジェ)、河村(春日井峠)の6山岳会6名で、今期の活動のまとめと、来期に向けての活動の方向性を話し合いました。参加者からは様々な意見や要望がだされ、それを踏まえた方針を現在まとめています。

### 【トピックス】

映画の紹介です。3月7日から伏見ミリオン座で上映されます。お時間がありましたらご覧ください。

“人生を楽しむことに いつだって遅すぎることはない”「イーディ、83歳 はじめての山登り」30年間、介護を続けてきた夫が逝った。その3年後、83歳になったイーディは娘に老人介護施設への入居を勧められる。人生の終わりを感じていたイーディだが、かつて仲の良かった父親と一緒に登ろうと言った山、スイルベン山に登る夢を果たすため、夜行列車に乗りスコットランドへ。登山用品店の青年ジョニーをトレーナーとして雇い、山登りの訓練を始める。

## 「山の自然に親しむ」 愛知県連公開講座のお知らせ

題 目：「化石と大地の成り立ち」

講演者：名古屋大学大学院環境研究科教授 竹内 誠 先生

日 時：6月13日(土) 15時～

場 所：愛知県勤労者山岳連盟事務所



北陸地方の約1億5千万年前の地層は、梅海新道付近をはじめとして、恐竜、アンモナイト、二枚貝などの化石が多く産出します。

一方、東海地方は、金華山や木曾川沿いなどに見られる放散虫という0.2 mmほどの微化石を含む地層からなり、同じ時期の地層でも化石の種類や地層の種類は大きく異なります。

これは何を示しているのでしょうか。山々から産する化石を題材として、日本列島の成り立ちを考えましょう。

基礎編では山岳地域の地質調査、これまで調査・研究対象とされてきた北アルプスを例として、地質調査の方法や山岳地域の地質情報を得る方法を学びます。

【編集後記】 今期も無事に12冊の労山愛知を出すことができました。行きがかり上、私が「編集後記」を偉そうに書いてますが、私がやってるのは実は原稿を貼り付けて誌面を作るだけで、計画や段取りをやってくださる方々の努力なくしては成り立ちません。ありがとうございました。(事務局 井土)

Schedule 2020

※ スケジュールは暫定です。

3月			4月			5月		
1	日	第52期総会	1	水		1	金	清掃登山④
2	月		2	木	清掃登山① 女性部会②	2	土	
3	火		3	金	遭対担当者会議①	3	日	
4	水		4	土		4	月	
5	木	女性部会①	5	日	一般登山実技①	5	火	
6	金		6	月	登山学校理論	6	水	
7	土		7	火		7	木	
8	日		8	水	清掃登山②	8	金	
9	月		9	木		9	土	
10	火		10	金	春山合宿遭対連絡会議	10	日	登山学校実技cc
11	水		11	土	一般登山講座③ 登山学校実技 MC	11	月	登山学校理論
12	木	組織担当者会議①	12	日	一般登山実技② 登山学校実技 MC	12	火	
13	金		13	月	登山学校理論	13	水	清掃登山⑤
14	土	理事会①	14	火		14	木	教育担当者会議③ 女性部会③
15	日		15	水	教育担当者会議②	15	金	春山合宿遭対報告会議
16	月		16	木		16	土	一般登山講座④⑤
17	火		17	金		17	日	一般登山実技③ 教育部交流 山行② 登山学校実技 C
18	水		18	土		18	月	登山学校理論
19	木	自然保護部会①	19	日	教育部交流山行① 登山学校実技 MC	19	火	
20	金		20	月	登山学校理論	20	水	組織担当者会議②
21	土		21	火		21	木	理事会④
22	日		22	水	清掃登山③	22	金	
23	月		23	木	理事会③	23	土	一般登山講座⑥ 登山学校実技 M
24	火		24	金		24	日	登山学校実技 M
25	水	教育担当者会議① 自然保護部会①予備	25	土		25	月	登山学校理論
26	木	理事会②	26	日		26	火	
27	金		27	月		27	水	
28	土	一般登山講座①② 同上実行委員会①	28	火		28	木	清掃登山⑥
29	日	登山学校理論	29	月		29	金	
30	月	登山学校理論	30	火		30	土	
31	火					31	日	(平和行進湖西市)

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com